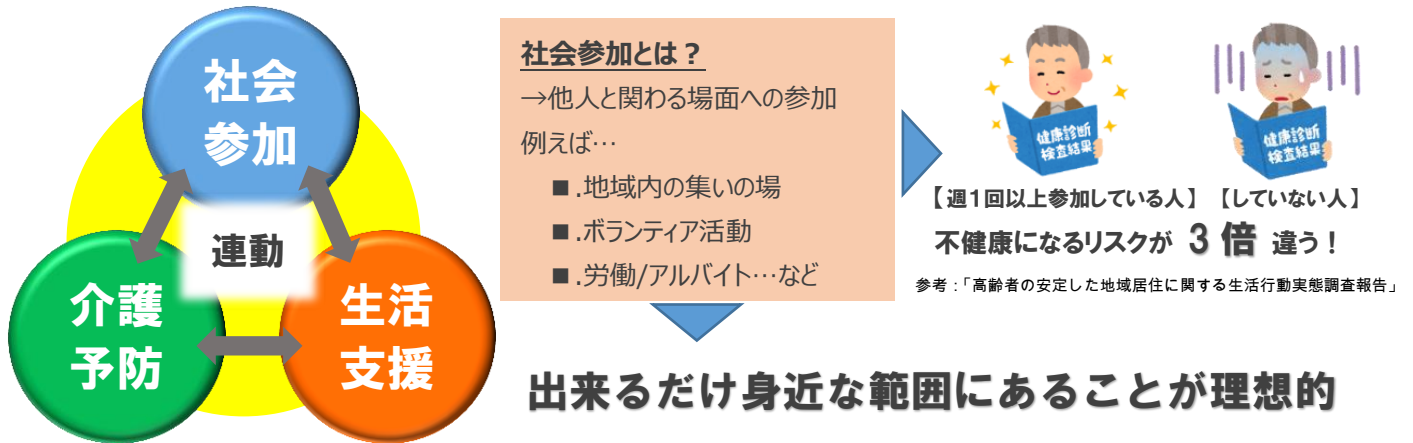


# 生活支援コーディネーター配置業務報告（2017年8月現在）

## 1. 業務概要

目的：生活支援コーディネーターは地域における『介護予防』と『生活支援』の取り組みを充実させる

内容：社会参加の場面づくりから地域内の生活支援の充実と介護予防を促進する



成果：足りない資源を創出／高齢者の生きがいやQOLを高める／住民同士のつながりと支え合いを広げる

評価：在宅生活ニーズの実現、要介護等認定者や介護保険給付費の減少につながる

## 2. 事業体制

- ・第1層生活支援コーディネーター（1名）・・全市エリアを担当
  - ・第2層生活支援コーディネーター（7名）・・日常生活圏域（概ね2中学校区）を担当
    - ※H29年度は中区（3圏域）・南区（4圏域）の2区に先行配置
    - ※コミュニティワーカー（CW）、コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の役割を併せ持つ
- 「日常生活圏域コーディネーター」として配置**

～推進体制図～

第1層  
（全市）

地域福祉課

第1層は第2層への間接支援  
統計情報の整理/全市資源把握/全市ネットワーク化/事業とりまとめ/支援ツール等作成…など

第2層  
（日常生活圏域）

区事務所【地域活動推進係】

第1  
圏域

第2  
圏域

第3  
圏域

第4  
圏域

第2層は圏域への直接支援  
地域アセスメント/資源把握/区・圏域ネットワーク化/集いの場づくり/協議の場面設定…など

### 3.実践内容（H29.4～H29.7）

#### ■.社会資源の把握（地域アセスメント）

##### 1.施設等資源（ハード面）の整理

- ◎福祉/医療/教育/会館/公園/交通機関/コンビニ/スーパー/金融機関/郵便局…等のリスト化（中・南）  
目的：校区や町会ごとの可視化を図り、地域アセスメントと資源創出のタネ集め

##### 2.取り組みや場などの資源（ソフト面）の把握

- ◎多様な協働資源のリスト化（※協働資源＝ヒト・モノ・カネ・場所・コト…で協力可能な主体）
  - ・全市＝94件集約【内、生活支援c把握：72件】  
主体別内訳【1位：企業 **51%** 2位：法人 **23%** 3位：任意団体 **11%**】  
→他、地縁団体/NPO/協同組合 … など多様な主体の情報を集約中
- ◎集いの場の把握（現在集計中）

##### 3.統計情報の活用

- ◎高齢者人口データの経年比較と市/区/圏域/校区比較ができるツールの作成
- ◎国勢調査データを活用した町内別人口統計（世帯構成や年齢推移等）を整理

##### 4.社会参加/生活支援/介護予防につながる場面づくり

現在取り組んでいるプロジェクト件数 【中：14件 / 南：22件】  
～実践事例（主体間のつながりと住民のつながりをコーディネート）～

###### 【UR集会所を活用した集いの場づくり】

###### 発端

- ・自治会がない/集会所の利用がゼロ
- ・地域のつながりが全くないエリア

###### 主体者間

UR管理会社/生協/民生委員/NPO/包括/  
保健センター/住民

###### 作った場面

- ・集会所イベント⇒200名の住民が参加
- ・継続活動【喫茶・子育てサロン・野菜販売】  
⇒平均30名の住民が参加

###### 結果

主体7団体をつなぎ、30名のつながりと社会参加  
を促進

###### 【買物困難エリアでの買物支援のしくみづくり】

###### 発端

- ・スーパーがなく高齢者が買物に困っている

###### 主体者間

自治会/民生委員会/まち協/生協団体

###### 想定の場合（現段階では未実施）

- ・買物の宅配（自治会/まち協連携）
- ・宅配を兼ねた見守り（民生委員連携）
- ・タブレット注文

###### 結果

地域団体では解決しがたい課題に、生協組織をマ  
ッチングし、高齢者への生活支援の充実を計画